

市農政について

質問 農地・水・環境保全向上対策の導入について伺いたい。

答弁 この事業は、農村の過疎化、高齢化に伴い、農地や農業用水路等の資源の保全管理体制が将来にわたる良好な状態で管理されるよう、地域住民が一体となつて行う取り組みに対して支援を行うものである。

当市において、農家自らが生産収益や恩恵を得るための基盤である農地や施設などの維持管理は、本来それらを利用する者が行うべきものであるという思いから、土地改良区や農家の共同作業で相当程度維持管理されている現状である。

こうしたことから、この事業は農村における古きよき慣習を消滅させ、ひいては農村文化そのものの崩壊が危惧されること、また市単独による多額の負担や事業終了後における対応など、様々な問題を含んでいる。このため、これまで自治体負担の軽減や裁量権の拡充など、地方の事情に見合った施策となるように、制度内容の見直しについて、国や県へ要望を行ってきた。

このようなことから、公平性、継続性、制度の信頼性などの観点から総合的に判断した結果、この事業の実施を踏みとどまっている。



現代美術館について

質問 現在の入館者数と経済効果について伺いたい。

答弁 入館者数は十一月末現在、常設展と企画展の延べ人数で約十四万二千八百人。内訳は常設展が八万三百人、企画展が六万二千五百人で、当初の予想を上回る入館者数となっている。

また、十月二十一日から二十六日まで、入館者のうち約八百人を対象にアンケート調査を実施した。その結果、市内の入館者は九%弱、市外の県内は六〇%、県外は三二%で、市外の入館者で一泊以上した方は二二%強となっている。また、入

建設

街路整備について

質問 下平東小稲線の整備計画について伺いたい。

答弁 当該路線は、道路ネットワーク上重要な路線であり、幹線道路として整備の必要性については十分認識している。県では、都市計画道路の未改良路線を対象に、平成二十一年度

館者は、現代美術館以外に十和田湖へ五〇%、道の駅へ四三%、商店街へ二二%立ち寄っている。このことから、現代美術館がもたらす経済効果はかなりのものであると考えている。

に、平成二十一年度道路網検討調査を実施することとしている。市と県では、その調査結果をもとに平成二十二年度に都市計画道路の見直しを図り、新たな道路ネットワークを構築して、計画的に今後の整備を進めていきたい。

道路行政について

質問 今年の除雪への対応について伺いたい。

答弁 近年市民ニーズの多様化や事業者の保有する重

機の減少など、除雪を取り巻く環境が変化してきたことへの対応として、五月に官民業の懇談会を開催するなど、新しい除雪システムを取り組み、検討を進めてきた。今年も、コンセプトを「官民業が協働してお互いに役割とマナーを守り、除雪作業の効率化を図ること」とし、業務委託については、昨年の八十区域を気象や周辺環境の条件などから八区域に分割し、業務委託した。委託費については、重機などの稼働時間による借り上げ方式から除雪を実施した道路の距離数に応じた請負方式とし、透明性の確保を図った。

今回のシステムの変更による事業者への影響は、借り上げ方式から請負方式になることで、請負工事同様に責任実施に迫られることとなる。一方で、効率的に作業を行うとすることで作業計画の見直しやオペレーターの養成、さらには使用重機の削減にもつながると考えている。

市民サービスの影響は、除雪作業、仕上げ基準、作業時間、作業時間の明確化などにより、市民サービスの向上につながるものと考え

えている。より良い除雪を実施するには、市民一人一人のモラルと協力が必要であることから、十一月一日号広報折り込みチラシを毎戸に配布し、市民の皆様にご協力をお願いした。今後委託事業者への指導、除雪サービス窓口の設置など、市民が快適さを感じる冬の確保に努めていきたい。



官民協働の道づくりについて

質問 道路整備普請事業としての支援策について伺いたい。

答弁 当市では、道路は最も重要な生活基盤であるため、その必要性から計画的に整備を進めている。しかし、今後ますます厳しい財

政状況が予測される中で、道路の整備に係る市民、町内会等からの要望は依然として多く、すべての要望にこたえていくことは、費用対効果、財政面から非常に困難な状況にあると考えている。このような状況の中で、町内会などの道路普請により市と連携して地域の道づくりを行うことは、協働のまちづくりを推進している当市にとって好ましいことと考えている。また、このことで地域の連帯意識も高まり、さらに様々な事業等への発展が期待される。今後先進事例等も参考にしながら、事業化に向けて取り組んでいきたい。

また、モデル地区での実施については、事業の実施に向けて様々なルールづくりが必要とされることから、このルールづくりとあわせ、現在地元町内会に側溝などの原材料を支給し、道路補修等を行っていることを事業化に向けてのシミュレーションにしてみたいと考えている。

